

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2025年11月12日

目次

2026年3月期 第2四半期(中間期)決算概要

1. 連結決算概要……………02
2. 連結営業利益増減要因……………04
3. 連結貸借対照表……………05
4. 事業セグメント別決算概要のポイント……………06

中期経営計画の進捗

5. 中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」概要…08
6. 持続的成長に向けた積極的設備投資……………10
7. 「SHINKA Plus ONE 2.0」トピックス……………11

2026年3月期 通期業績見通し

8. 2026年3月期通期業績見通し……………14
9. 配当予想の修正について ……15



2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算概要

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

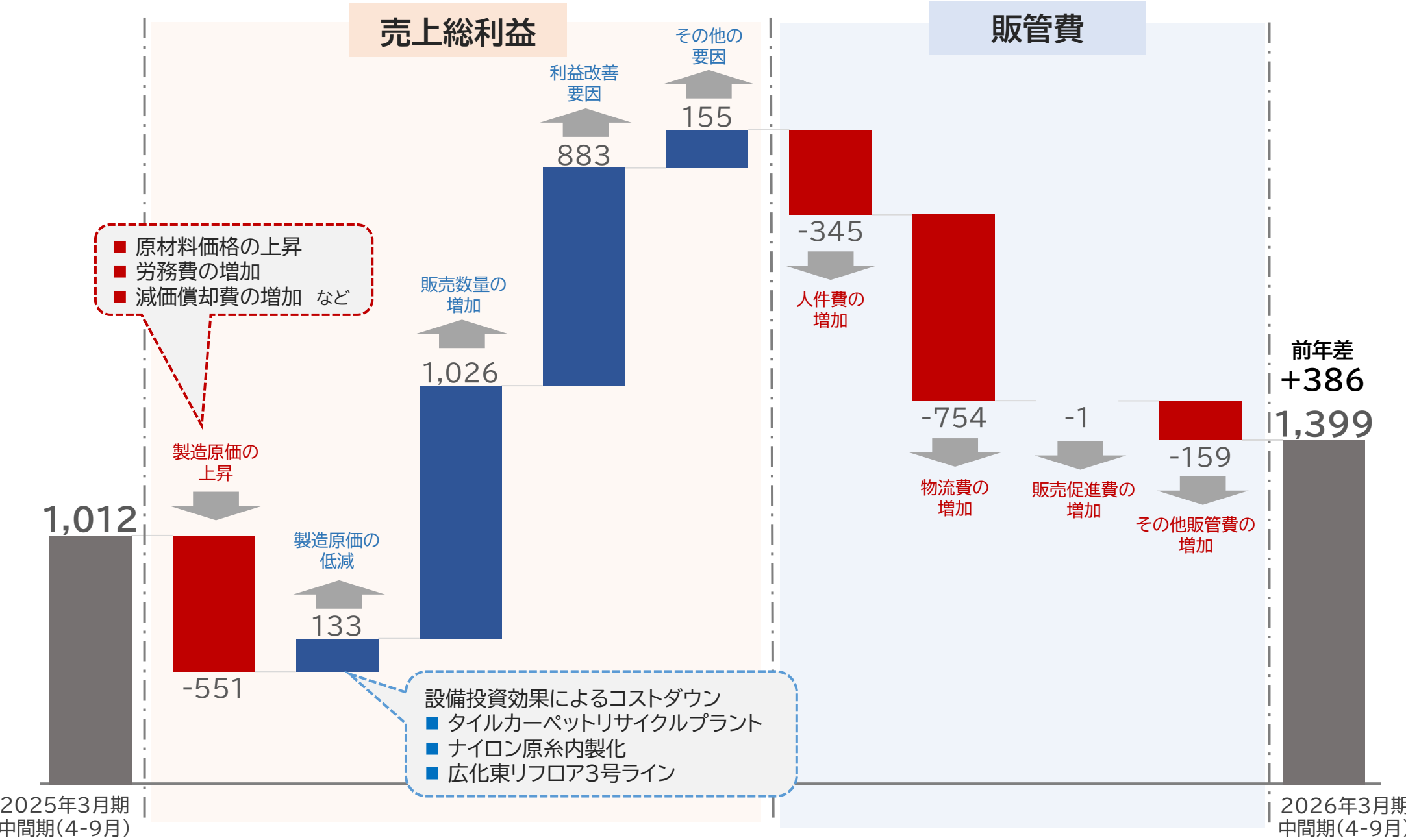
	2025年3月期 中間期(4-9月)	2026年3月期 中間期(4-9月)		
	実績	実績	前期比(%)	前期差
売上高	47,418	52,292	+ 10.3	+ 4,873
売上総利益 (売上高比率)	13,668 (28.8%)	15,314 (29.3%)	+ 12.0	+ 1,646
販売費及び一般管理費 (売上高比率)	12,655 (26.7%)	13,915 (26.6%)	+ 10.0	+ 1,259
営業利益 (売上高比率)	1,012 (2.1%)	1,399 (2.7%)	+ 38.2	+ 386
経常利益 (売上高比率)	1,147 (2.4%)	1,710 (3.3%)	+ 49.0	+ 562
親会社株主に帰属する中間純利益 (売上高比率)	689 (1.5%)	1,090 (2.1%)	+ 58.3	+ 401

Point

- 今期発売商品の販促活動に注力し、ビニル系床材や壁装材を中心に販売数量が増加したことで、売上高は伸長。
- 原材料価格の上昇や減価償却費の増加に加え、物流コスト及び人的資本投資などの事業活動にかかる費用は増加。
- 増収効果並びに原価低減活動に加え、上代改定を伴う販売価格改定が進展したことで、利益は前年を上回る。

連結営業利益 増減要因

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)



連結貸借対照表

資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)

流動資産 527	▲15	流動資産 512
固定資産 413	+26	固定資産 440
2025年3月末		2025年9月末

Point

<流動資産>

■ 受取手形及び売掛金の減少 ▲41

■ 現金及び預金 +11

■ 在庫の増加 +8 等

<固定資産>

■ 有形固定資産の増加 +12 等

負債／純資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)

負債 456	+2	負債 458
純資産 483	+9	純資産 493
2025年3月末		2025年9月末

Point

<負債>

■ 借入金の増加 +7 等

<純資産>

■ 利益剰余金の増加 +1

■ その他有価証券評価差額金 +9 等

2026年3月期 第2四半期(中間期) 事業セグメント別業績のポイント

インテリア事業

売上高

49,839百万円
前年比(+9.9%)

セグメント
利益

1,427百万円
前年比(+31.3%)

- 各種展示会や全国各地での新製品発表会を通じて、高付加価値製品の販促活動に注力。
- ビニル系床材と壁装材を中心に販売数量が増加し、売上高が大幅に伸長。
- 大型設備投資による減価償却費や物流コスト・人件費などの費用増に対し、増収効果並びに原価低減活動や一部製品の上代改定を含む販売価格の底上げが進展したことで、セグメント利益は前年を上回る。

グローバル事業

売上高

1,107百万円
前年比(+12.6%)

セグメント
損失

▲110百万円
前年同期
(セグメント損失▲116百万円)

- 中国市場では、不動産不況や中国経済の成長鈍化を背景に販売が伸び悩み。
- 2024年7月に営業開始した「TOLI North America」の業績が寄与するなど、利益率は改善傾向ではあるが、物流コストの上昇等が利益減少要因となる。
- 米国関税政策による影響については今後も引き続き注視が必要。

建材その他事業

売上高

2,418百万円
前年比(+7.0%)

セグメント
利益

81百万円
前年比(+94.2%)

- 業際分野及び産業資材向け東リブランド製品の製造販売では、浴室・浴場向けビニル床シート「バスナシシリーズ」等が伸長し、売上・利益ともに前年を上回る。
- 卓球リーグ「Tリーグ」とオフィシャルフロアマットパートナー契約を締結するなど、スポーツ市場向け専用床材の開発及び販売チャネル開拓が進展。

※セグメント間の取引を含めて表示

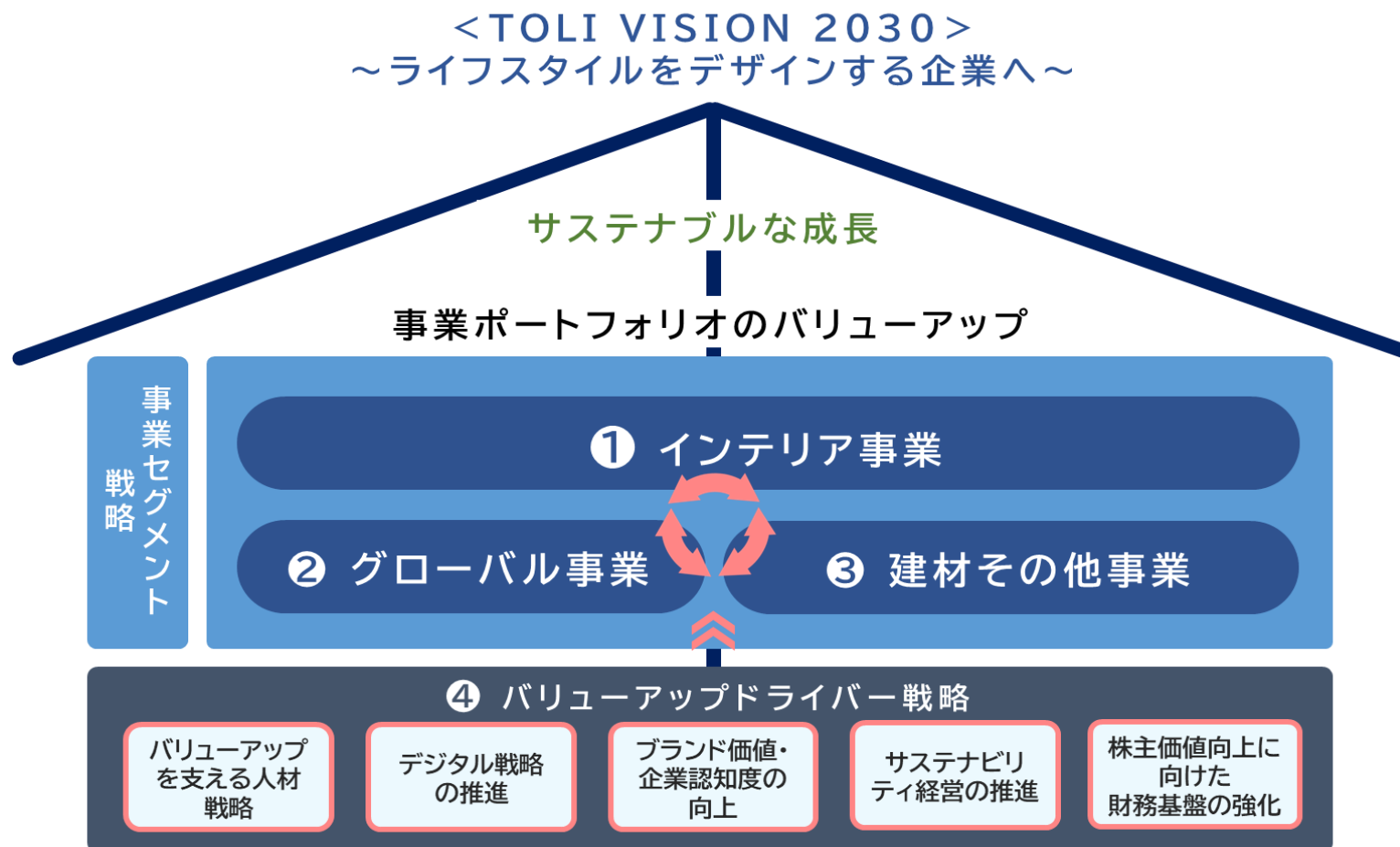


中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」の進捗

中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」の概要

成長戦略の全体概要

- ▶ 3つの事業セグメントに基づく成長戦略を推進
- ▶ 事業セグメントの成長を支える経営基盤の強化(バリューアップドライバー戦略)
- ▶ 事業ポートフォリオのバリューアップを図り、サステナブルな成長を目指す



中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」の概要

成長戦略の全体概要

① インテリア事業

- グループ事業推進力の源泉であり、事業収益性のさらなる向上を目指す
- 持続的成長に向けた積極的設備投資の推進
- 内製化戦略による製品安定供給体制の構築、コスト競争力の向上
- リサイクル活動・新技術活用による製品競争力の向上 ■ 空間デザイン・プロダクトデザインの進化

② グローバル事業

- 当社グループの伸びしろであるグローバル事業の拡大
- グローバル戦略商品展開・営業拠点強化による売上拡大
- 江蘇長隆裝飾材料科技有限公司(JCL)の事業強化

③ 建材その他事業

- 業際分野・産業資材向け製品の開発・拡販 ■ 技術的アプローチによる新たな市場・新規チャネルの開拓
- 新たな“事業のタネ”を開花へと導く

④ バリューアップドライバー戦略

- 加速度的な成長を目指すべく経営基盤の多面的強化
- 人的資本・デジタル・ブランド価値・サステナビリティ・株主価値を切り口とした機能強化

持続的成長に向けた積極的設備投資と効果最大化

「SHINKA Plus ONE 2.0」

広化東リフロア3号ライン



タイルカーペット
リサイクルプラント



カーペット用
ナイロン紡糸設備



新しいビニル系床材工場

- ✓製造原価低減
- ✓独自品開発

- ・独自デザインのビニル床シート発売 **トピックス①**
- ・生産製品の販売数量拡大とコストダウンの追求

「TOLI完全循環型リサイクルシステム」 の心臓部

- ✓独自品開発
- ✓製造原価低減
- ✓産業廃棄物排出量削減

- ・エコマーク認定商品のラインアップ拡充と販促強化
- ・リサイクル処理効率化設備によるリサイクル量拡大
- ・リサイクル回収エリアの拡大

カーペット用ナイロンの内製化

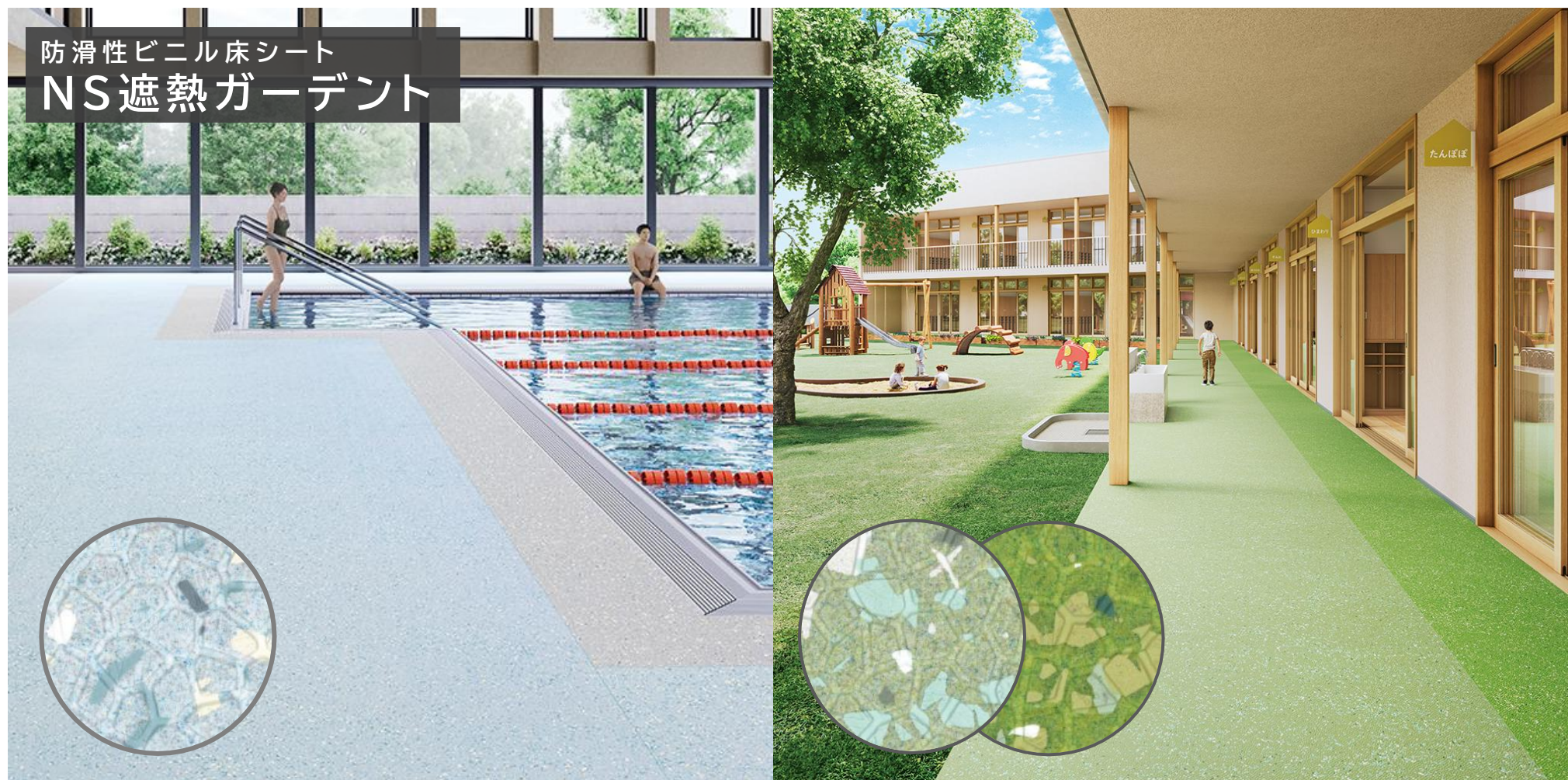
- ✓安定供給
- ✓製造原価低減
- ✓独自品開発

- ・4基目のナイロン原糸紡糸設備の稼働
- ・原糸在庫機能の効率化投資 **トピックス②**
- ・自社内製糸製品の拡大によるコストダウンの推進

「SHINKA Plus ONE 2.0」トピックス①

広化東リフロア3号ラインが生み出す新製品

太陽光による遮熱性の高い防滑性ビニル床シート



「SHINKA Plus ONE 2.0」トピックス②

全点に自社内製糸を採用した、環境配慮型タイルカーペット、
「GA-3600 サスティブバック」を10月に新発売。



環境対応タイルカーペットバック「サスティブバック」は
2025年度グッドデザイン賞を受賞

THE BARK 【樹皮】



メイプルウィーブ
MAPLE WEAWE



シダーライン
CEDAR LINE



レイヤードバーチ
LAYERED BIRCH



グレイスフィールド
GRACE FIELD



カームホライズン
CALM HORIZON



ラティスバレー
LATTICE VALLEY

THE LAKE 【湖】



スワンウェーブ
SWAN WAVE



フロストヴェール
FROST VEIL



シャインロンバスII
SHINE RHOMBUS II



ラスターフロー
LUSTER FLOW

10柄67アイテムで使用する
ナイロン繊維を全点内製化



GOOD
DESIGN



2026年3月期 業績見通し

2026年3月期 連結業績見通し

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

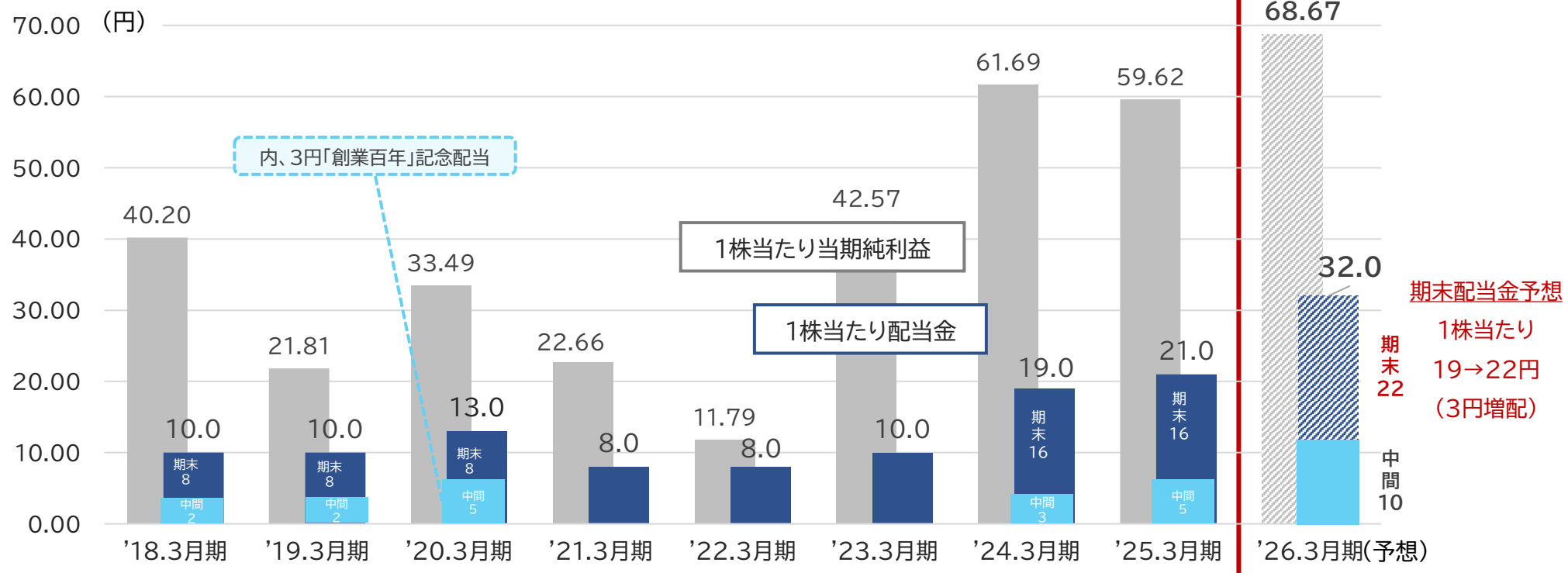
	2025年3月期		2026年3月期			
	実績	業績予想値 (7/30発表)	修正予想値 (10/31発表)	前年比	前年差	前回予想差
売上高	105,709	109,000	111,000	5.0%	+ 5,290	+ 2,000
営業利益	4,376	4,400	5,100	16.5%	+ 723	+ 700
経常利益	4,665	4,650	5,500	17.9%	+ 834	+ 850
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,507	3,350	4,000	14.1%	+ 492	+ 650

Point

- 米国の通商政策の動向や地政学リスクなど、依然として先行き不透明な経営環境が続く。
- 当期発売製品を中心に販売促進活動に注力するとともに、第2四半期連結業績を踏まえて、通期の業績予想数値を上方修正。

配当予想の修正について

配当金推移(円)



- 2026年3月期をスタートとする中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」期間中の株主配当については、連結配当性向50%、又はDOE3.5%を目安に安定的な配当を継続的に実施することとし、年間配当金は19円を下限とする方針。
- 上記基本方針及び10月31日発表の業績予想修正等を踏まえ、2026年3月期の期末配当金を前回修正時(7月30日)から3円増配となる 1株当たり22円に修正。なお、1株当たり年間配当金は、中間配当金10円を合わせた、1株当たり32円を予定。

将来見通し等に関する注意事項



IRに関する
お問い合わせ先

東リ株式会社
経営企画部

e-mail

toli_ir@toli.co.jp

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。